

インフラメンテナンス国民会議 近畿本部 第 2 回フォーラム 開催結果

開催概要

日時：平成 29 年 3 月 9 日(木) 14:00～17:00

参加者：地方自治体※：3 府県、2 市町村（10 名）

※ 政令市は府県にカウント、滋賀県建設技術センターは滋賀県と同一とカウント

民間企業等：23 社（29 名）

事務局（国土政策研究会）（10 名）

国土交通省：近畿地方整備局（4 名）

メンター：2 名

出席者合計 55 名

フォーラムの開催結果

- ・ 今回は、第 1 回フォーラム（1 月 31 日実施）において討議を行った施設管理者が抱える維持管理の課題 8 テーマの内、「橋梁・コンクリート構造物点検関係」、「下水道関係」に関する 3 テーマ（①橋梁点検車が使えない幅員の狭い橋梁における効率的な点検技術、②桁下空間に制約がある橋梁における効率的な点検技術、③圧送方式の下水管渠における効率的な点検技術）について、班別討議を行った。
- ・ その結果、企業会員から民間企業が有する技術について情報が提供され、自治体の抱える課題解決に向けて、活発な討議が行われた。
- ・ 参加自治体からは、積極的なニーズ発信の必要性や同じニーズを抱える他の自治体との意見交換の実施などについて意見や感想が出され、企業会員からは、本フォーラムにおける討議の水平展開や現場検証の実施などについて意見や感想が出された。
- ・ 最後に、近畿情報ワーキング長の関西大学坂野教授から、「共通テーマは『近接目視が困難な箇所点検』であるが、『見にくいから見ない』は管理者として許されない。目視でなくても何とか点検できる技術を（多少の空振りは気にせずに）複数試して不具合箇所のスクリーニングを行うなど、危険な変状を見逃さない工夫や努力が必要。また、そのためには現地における空振り率や見逃し率に関する検証が不可欠なので、本フォーラムを通じてフィールド提供も求めたい。」とのコメントとともに、「管理者による直営点検も一つの方向であり、これらの活動を下支えするのは『人材育成』だと思う。」との見解もいただきました。

班別討議の概要

討議テーマ①

テーマ名	橋梁点検車が使えない幅員の狭い橋梁における効率的な点検技術
課題提供者	阪南市
討議内容	参加自治体からは、予算制約や橋梁点検時に通行止めできない条件などが出され、企業会員からは、既存技術の紹介がなされた。また、コスト比較等も見据えた現場検証に向けた調整を始めてもよいのではないかとの意見も出された。今後は、現場検証に向けた課題等について議論を進めることとした。

討議テーマ②

テーマ名	桁下空間に制約がある橋梁における効率的な点検技術
課題提供者	公益財団法人滋賀県建設技術センター
討議内容	参加自治体から提案された桁下空間に制約がある橋梁について、近接目視の方法等を議論するとともに、スクリーニング技術の重要性についても意見が出された。今後は、スクリーニング技術やその課題などについて議論を進めることとした。

討議テーマ③

テーマ名	圧送方式の下水管渠における効率的な点検技術
課題提供者	滋賀県
討議内容	圧送管の点検は、全ての施設管理者の抱える共通の課題であることを共有し、企業会員から、海外技術を用いた管内点検用カメラや音響計測技術等の紹介があり、技術改良や新技術の開発などについて議論した。今後は、更なる技術（シーズ）の掘り起こしや新技術の開発の可能性について議論を進めることとした。



第2回フォーラムの様子